

掛川市条例第34号

掛川市都市計画税条例の一部を改正する条例をここに公布する。

令和4年7月5日

掛川市長

(別紙)

掛川市都市計画税条例の一部を改正する条例

掛川市都市計画税条例（平成18年掛川市条例第73号）の一部を次のように改正する。

次の表中下線又は太線の表示部分（以下改正前の欄にあつては「改正部分」と、改正後の欄にあつては「改正後の部分」という。）については、次のとおりとする。

- (1) 改正部分及びそれに対応する改正後の部分が存在するときは、当該改正部分を当該改正後の部分に改める。
- (2) 改正部分のみ存在するときは、当該改正部分を削る。
- (3) 改正後の部分のみ存在するときは、当該改正後の部分を加える。

改 正 前	改 正 後
附 則	附 則
	（法附則第15条第44項の条例で定める割合）
	<u>7 法附則第15条44項に規定する市町村の条例</u>
	<u>で定める割合は、4分の3とする。</u>
<u>7</u> (略)	<u>8</u> (略)
<u>8</u> (略)	<u>9</u> (略)
<u>9</u> (略)	<u>10</u> (略)
<u>10</u> 附則第8項の規定の適用を受ける宅地等に 係る令和4年度分及び令和5年度分の宅地等 調整都市計画税額は、当該宅地等調整都市計 画税額が、当該宅地等に係る当該年度分の都 市計画税の課税標準となるべき価格に10分の 2を乗じて得た額（当該宅地等が当該年度分 の固定資産税について法第349条の3（第18 項を除く。）又は附則第15条から第15条の3ま での規定の適用を受ける宅地等であるとき は、当該額にこれらの規定に定める率を乗じ て得た額）を当該宅地等に係る当該年度分の 都市計画税の課税標準となるべき額とした場 合における都市計画税額に満たない場合に は、 <u>附則第8項</u> の規定にかかわらず、当該都 市計画税額とする。	<u>11</u> 附則第9項の規定の適用を受ける宅地等に 係る令和4年度分及び令和5年度分の宅地等 調整都市計画税額は、当該宅地等調整都市計 画税額が、当該宅地等に係る当該年度分の都 市計画税の課税標準となるべき価格に10分の 2を乗じて得た額（当該宅地等が当該年度分 の固定資産税について法第349条の3（第18 項を除く。）又は附則第15条から第15条の3ま での規定の適用を受ける宅地等であるとき は、当該額にこれらの規定に定める率を乗じ て得た額）を当該宅地等に係る当該年度分の 都市計画税の課税標準となるべき額とした場 合における都市計画税額に満たない場合に は、 <u>附則第9項</u> の規定にかかわらず、当該都 市計画税額とする。
<u>11</u> 商業地等のうち当該商業地等の当該年度の 負担水準が0.6以上0.7以下のものに係る令和 3年度から令和5年度までの各年度分の都市 計画税の額は、 <u>附則第8項</u> の規定にかかわら ず、当該商業地等の当該年度分の都市計画税 に係る前年度分の都市計画税の課税標準額	<u>12</u> 商業地等のうち当該商業地等の当該年度の 負担水準が0.6以上0.7以下のものに係る令和 3年度から令和5年度までの各年度分の都市 計画税の額は、 <u>附則第9項</u> の規定にかかわら ず、当該商業地等の当該年度分の都市計画税 に係る前年度分の都市計画税の課税標準額

(当該商業地等が当該年度分の固定資産税について法第349条の3(第18項を除く。))又は附則第15条から第15条の3までの規定の適用を受ける商業地等であるときは、当該課税標準額にこれらの規定に定める率を乗じて得た額)を当該商業地等に係る当該年度分の都市計画税の課税標準となるべき額とした場合における都市計画税額(以下「商業地等据置都市計画税額」という。)とする。

12 商業地等のうち当該商業地等の当該年度の負担水準が0.7を超えるものに係る令和3年度から令和5年度までの各年度分の都市計画税の額は、附則第8項の規定にかかわらず、当該商業地等に係る当該年度分の都市計画税の課税標準となるべき価格に10分の7を乗じて得た額(当該商業地等が当該年度分の固定資産税について法第349条の3(第18項を除く。))又は附則第15条から第15条の3までの規定の適用を受ける商業地等であるときは、当該額にこれらの規定に定める率を乗じて得た額)を当該商業地等に係る当該年度分の都市計画税の課税標準となるべき額とした場合における都市計画税額(以下「商業地等調整都市計画税額」という。)とする。

13 (略)

14 (略)

15 前項の規定の適用を受ける市街化区域農地に対する附則第13項の規定の適用については、同項中「当該農地に係る当該年度分の都市計画税額」とあるのは、「次項の規定により算定した当該農地に係る当該年度分の都市計画税額」とする。

16 附則第8項及び第10項の「宅地等」とは法附則第17条第2号に、附則第8項及び第11項の「前年度分の都市計画税の課税標準額」とは法附則第25条第6項において読み替えて準用される法附則第18条第6項に、附則第8項、第9項、第11項及び第12項の「商業地等」とは法附則第17条第4号に、附則第11項から第13項までの「負担水準」とは法附則第

(当該商業地等が当該年度分の固定資産税について法第349条の3(第18項を除く。))又は附則第15条から第15条の3までの規定の適用を受ける商業地等であるときは、当該課税標準額にこれらの規定に定める率を乗じて得た額)を当該商業地等に係る当該年度分の都市計画税の課税標準となるべき額とした場合における都市計画税額(以下「商業地等据置都市計画税額」という。)とする。

13 商業地等のうち当該商業地等の当該年度の負担水準が0.7を超えるものに係る令和3年度から令和5年度までの各年度分の都市計画税の額は、附則第9項の規定にかかわらず、当該商業地等に係る当該年度分の都市計画税の課税標準となるべき価格に10分の7を乗じて得た額(当該商業地等が当該年度分の固定資産税について法第349条の3(第18項を除く。))又は附則第15条から第15条の3までの規定の適用を受ける商業地等であるときは、当該額にこれらの規定に定める率を乗じて得た額)を当該商業地等に係る当該年度分の都市計画税の課税標準となるべき額とした場合における都市計画税額(以下「商業地等調整都市計画税額」という。)とする。

14 (略)

15 (略)

16 前項の規定の適用を受ける市街化区域農地に対する附則第14項の規定の適用については、同項中「当該農地に係る当該年度分の都市計画税額」とあるのは、「次項の規定により算定した当該農地に係る当該年度分の都市計画税額」とする。

17 附則第9項及び第11項の「宅地等」とは法附則第17条第2号に、附則第9項及び第12項の「前年度分の都市計画税の課税標準額」とは法附則第25条第6項において読み替えて準用される法附則第18条第6項に、附則第9項、第10項、第12項及び第13項の「商業地等」とは法附則第17条第4号に、附則第12項から第14項までの「負担水準」とは法附則第

17条第8号ロに、附則第13項の「農地」とは法附則第17条第1号に、附則第13項の「前年度分の都市計画税の課税標準額」とは法附則第26条第2項において読み替えて準用される法附則第18条第6項に、附則第14項及び前項の「市街化区域農地」とは法附則第19条の2第1項に規定するところによる。

17 (略)

17条第8号ロに、附則第14項の「農地」とは法附則第17条第1号に、附則第14項の「前年度分の都市計画税の課税標準額」とは法附則第26条第2項において読み替えて準用される法附則第18条第6項に、附則第15項及び前項の「市街化区域農地」とは法附則第19条の2第1項に規定するところによる。

18 (略)

附 則

- 1 この条例は、公布の日から施行する。
- 2 改正後の掛川市都市計画税条例の規定は、令和5年度以降の年度分の都市計画税について適用し、令和4年度分までの都市計画税については、なお従前の例による。